

〔新入社員の声〕

## 新入社員の声

吉井達也

(株)シムコ 大館 GGP センター)

All about SWINE 57・58, 46-47

私は2019年4月に弊社に入社しました。入社から6ヵ月間の新入社員研修を終え、2019年10月からは種豚舎およびAIの担当者として奮闘しています。

学生時代、私は豚には一切関係のないヒト用ワクチンの開発研究をしており、畜産に関する勉強・経験をしたことはありませんでした。しかし採用前の説明会で丁寧な説明を受け、また弊社館山事業所を見学する機会に恵まれ、豚の飼養に関する漠然としたイメージを得てから入社することができました。そのため入社後に、私のイメージと現実のギャップを感じることはありませんでした。新入社員研修ではセンター内の各部署（分娩舎・離乳舎・種豚舎・AI・育成舎）の業務を教わることで豚の飼養における基礎知識を学ぶことができ、豚の知識が皆無であった私には貴重な6ヵ月間となりました。

さて、研修後は種豚舎・AIの配属になりました。種豚舎では発情確認の習得に苦勞しました。豚の挙動や陰部の様子が変化すると本で勉強しましたが、豚によって程度が変わるので発情を見落としてしまうことがしばしばありました。先輩社員に教わりながら数をこなすことで、現在はある程度は分かるようになりました。また、夏場など

に体調を崩した妊豚にいち早く気が付いて治療できるように心がけていますが、まだまだ見落としがあると感じています。今後も豚の動きに注意しながら業務にあたり、細かい変化に気が付けるようになっていきたいです。

AIでは自家交配だけではなく、客先に発送する精液も生産します。いずれにおいても活力・性状ともに良い精液を供給できるように日々の採取・精液検査、また雄豚の管理を行っています。精液検査をしていると学生時代に無菌操作で細胞培養をしていたことが思い出され、無菌操作の感覚や顕微鏡をはじめとする機器の操作など、学生時代の経験も無駄にはなっていないと感じます。AIの業務をしていて難しく感じることは、機器による明確な測定ができない活力検査です。他の担当者の検査結果を参考に目合わせを行っていくことで、最近是我的活力検査結果も精度が上がってきました。また雄豚の精液採取の調教にも手を焼いており、日々雄豚と根競べをしています。できるだけ毎日調教することで、雄豚のやる気のあるタイミングで採取場に連れて行ってあげられるように努めています。調教の時間を割くために、種豚舎・AIの定型業務の精度を落とさず如何に効率よくこなすか考えて作業しているうちに、嬉し

いことに、仕事の段取りが上手くなったように感じています。また、何頭も雄豚の相手をしているうちに徐々に調教にも慣れて、最近では以前よりも効率よく調教できるようになってきました。

大館 GGP センターでは週単位で管理しているため、基本的に毎週同じ作業を繰り返すことにな

ります。何度も同じ作業を繰り返しているうちに徐々にできることが増え、作業がうまくなっていくことが自分でもわかり、やりがいをもって働くことができています。これからもどんどん吸収できることは吸収して成長することで、大館 GGP センターの一員として頑張っていきたいです。

〔新入社員の声〕

## 新入社員の声

柴田千夏

(株シムコ 大館 GGP センター)

All about SWINE 57・58, 48

(株シムコ 大館 GGP センターの柴田千夏です。私は入社2年目ですが、昨年の半年間の新入社員研修の頃を中心に思い出しながら書いてみたいと思います。

私は大学時代に豚と関わる経験は数える程度しかなく、解剖実習などを除くと生きている豚と関わったのは1, 2回程でした。豚のことをあまり詳しく知らないまま入社したので最初の頃は初めて知ることが多く、加えてあまり体力もなかったので毎日仕事が終わるころにはとても疲れていたことを覚えています。

入社後最初の研修だった分娩舎では、作業を一つ一つ覚えることも大変でしたが、飼養管理の経験が無かったということもあり、定型作業などを行いながら豚の体調にも気を配ることが最初はなかなか出来ませんでした。特に分娩舎では母豚と子豚が共に生活しており、母豚の体調不良が子豚にも影響が出やすいので注意深く観察することの大切さを学びました。

次の2か月は種豚・AI舎での研修でした。種豚舎では発情確認や交配の仕方を学びました。初めは発情を正確に見分けることが難しかったです

が何度もやるうちに兆候が見分けられるようになっていったことを覚えています。AIでは初めて近くで雄豚と関わって、最初はその大きさに圧倒されて少し怖さを感じましたが、初めて精液を採取できた時は嬉しかったです。

最後は離乳・育成舎での研修でした。特に育成舎ではそれまでの研修で回った部署以上に豚を移動させる機会が多かったのですが、最初は思うように動かすことが出来ず手こずることも多かったように思います。しかし、回数を重ねていくにつれて少しずつ上達していきました。

最初の頃は言われたことをこなすだけで精一杯でしたが、次第に次のことを考えながら動けるようになりました。現在は分娩舎で仕事をしていきます。分娩舎での仕事は、子豚を出来るだけ良い状態で離乳舎へ送り出し、母豚も次の交配に向けて体型、体調を整えて種豚舎に戻せるように管理していきます。大変なこともあります、やりがいのある仕事だと思います。まだまだ知識や経験も浅く未熟な部分も多くありますが、今後も新しい知識をどんどん吸収しながら養豚に関わる一社会人としてより一層精進していきたいです。